

熊本県立荒尾支援学校進路便り 2月号 (通巻NO. 21)

わーく&らifu

平成30年2月28日 進路指導部 発行

■CONTENTS■

- ★キャリア教育基礎講座「あこがれ効果」
- ★福祉基礎知識「福祉サービス利用の流れ」

キャリア教育基礎講座「あこがれ効果」

■特別支援学校ならではのキャリア教育「あこがれ効果」

特別支援学校は、小学生から高校生まで幅広い年齢層の子どもたちが学ぶ場です。子どもたちは日々の生活の中で、また行事の中で、先輩達を身近に感じ、進級・進学に期待感を高めたり、先輩のかっこよさにあこがれたりしながら心身ともに成長していきます。これは保護者の皆様・私ども教師にとっても同じで、我が子（児童生徒）の数年先を見据えて、先輩のようになって欲しいと願う気持ちが、子育て（教育）のモチベーションとなるに違いありません。これを「あこがれ効果」と呼び、子どもたちのキャリア発達を促すために非常に重要なことです。

■卒業式はあるけれど卒業のない学校

高等部を卒業すると、平日に休みのある生活が始まる先輩達も多数います。そうした卒業生たちは、必ずと言っていいほど休みを活用して学校へ顔を出してくれます。しかも、「そろそろ実習でしょ。」とか「ARA・SHI祭りに向けて頑張ってますか。」等、行事に向けた後輩を励ます目的を持って来校してくれるのです。だれが教えた訳ではありませんが、これもまた自分たちが先輩たちから受けた温かなエールを、立場を変えて後輩に返そうとしているのだと思います。

■高等部一般学級「ようこそ先輩」～10年後も今の職場で働きたい～

卒業を間近に控えた高等部一般学級三年生では、そのようなあこがれの存在である先輩達を道徳のゲストティーチャーとしてお招きして、意見交換会を開きました。



「熱心に質疑応答」

ゲストティーチャー
★Tさん（平成28年度卒）
〇〇株式会社勤務
★Oさん（平成28年度卒）
有限会社〇〇勤務

三年生は、事前学習で自分の将来と結びつけて質問事項を考え、いろいろな質問をしました。



◆あいさつ笑顔身だしなみ

「初めて出勤する日、心掛けたことは何ですか」という質問に対しては、「あいさつ、笑顔、身だしなみ」という回答があり、早速その場で、全員で出勤初日を想定して笑顔であいさつをする練習を行いました。

また「現場実習の時と、実際に働くようになってから、特にどんなことが変わりましたか？」という質問に対しては「実習の

時よりも、仕事内容が変化し、仕事量が増えた」という回答がありました。

◆どんな大人になりたいですか？

また「10年後は、どんな大人になりたいですか」という質問に対し「今の職場で働き続けていきたいです」という回答を聞き、生徒たちは、仕事を続けることの大切さを感じ取っていたようです。

◆先輩からのメッセージ

最後は先輩たちから卒業生へ「とにかく精神力と体力が大切です」「自分で仕事を見つけて動く練習をしておくといいと思います。行動力が大切です。がんばってください」というメッセージが送られました。

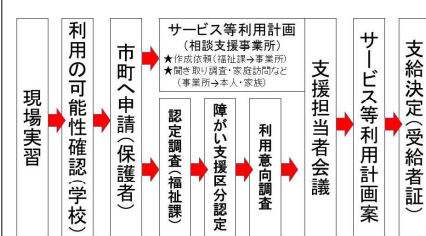
福祉基礎講座「福祉サービス利用の流れ」

卒業後福祉サービスを利用するに当たっては、相談支援事業所の相談支援専門員に「利用計画」をたててもらうことが必須となっています。（右図参照）

この利用計画を踏まえて、お住まいの市町が、お子さんが使うことのできるサービスの内容と量（日数）を判断し（サービス支給決定）、ようやく福祉事業者と契約できる仕組みになっていますので覚えておきましょう。

現在高等部三年生では、右図中の「支援担当者会議」が始まっています。これは相談支援事業所主催の会議です。本人・保護者・利用予定の事業所担当者・担任等が一堂に会し、生徒のよりよい卒業後の生活について意見交換を行う場ですから、「当事者ファースト」です。本人・ご家族の希望や夢をしっかりと語りあいましょう。

障がい福祉サービス利用の流れ



【編集後記】

昨年、福祉サービス事業所給食費の本人負担増加が話題となっていました。これは国が福祉施策の変更（食事提供体制加算の廃止）を予定していたことによるもので、全国規模の反対運動が起こりました。その功あつてひとまず負担増加はない模様ですが、総合支援法の見直しの時期に何が変わるのか引き続き注視していく必要があります。（谷口）

